

## 年のへそ ～1年の真ん中～

R2.7.1

今日から7月です。

7月は旧暦で言うと、皆さんがよく知っている文月（ふみづき、ふづき）が有名ですが、調べてみると他にも、七夕月、七夜（ななよ）月、文披（ふみひら）月、女郎花（おみなえし）月、袖合（そであい）月、愛逢（めであい）月、秋初（あきは）月、親月、涼月など別名がたくさんありました。その時期の様子や季節感などがその名の由来となっているようです。

文月の由来や語源は諸説あり、その1つに文披月が短くなって文月になったという説があります。文披月は文を広げて晒（さら）す月という意味があり、七夕のときに、短冊に願い事や詩歌を書いて笹に飾る風習を指しているそうです。



さて、今日は7月1日、通日183日目です。通日というのは、1月1日から通して数えた日数のことです。勘のいい人はもうすでに気づいたかもしれませんが、今日7月1日の午後12時、明日の午前0時が1年の真ん中になります。今年はどういう年なので少しずれましたが、昔、6月30日（みそか）は「年のへそ」と言われていたようです。

年度で考えれば、始まって3ヶ月、しかも今年度は休校が続き、6月1日に学校が再開してからまだひと月ですが、2020年という1年で考えると、もう半分が過ぎることになります。1年の折り返し地点に来ているということです。

振り返ってみてください。この半年、思うようにできましたか、満足していますか。新型コロナの感染拡大の影響などで計画が大きく崩れ、思ったようにいかなかった人や、やろうという気持ちはあったが、実際の行動にはつながらなかった人も少なからずいるのではないのでしょうか。

2020年の残り半年、今からでも遅くはないので、自分自身にとって満足のいく1年になるように、今一度気合いを入れて、先の見通しを持ち、1つ1つ計画的にそして確実に取り組んでいきましょう。よい1年は自らの努力で創り上げましょう。

学校としても、引き続き全職員で、感染拡大防止に留意しながら、休校分を丁寧に補い、これからの教育活動の一層の充実に努めます。 才鷹